

令和7年度 地震防災強化月間 実施方針

1 目的

南海トラフ地震、相模トラフ沿いの地震などの地震・津波のほか自然災害の発生から生命を守り、被害を最小限にとどめるためには、県民一人ひとりが「自らの命は自ら守る」「自らの地域は皆で守る」を基本として、積極的に防災の役割を果たしていくことが重要である。

静岡県では、毎年11月を「地震防災強化月間」と定め、県及び市町が広報・啓発活動などを集中的に展開し、県民の防災意識の高揚を図るとともに、12月第1日曜日の「地域防災の日」を中心に地域防災訓練を実施し、自助、共助による地域防災力の向上を図るものとする。

2 スローガン 「フェーズフリー「いつも」を「もしも」に」

3 期間

令和7年11月1日(土)～12月7日(日)（「地域防災の日」を含む）

4 実施項目

県及び市町は、本期間中、家庭や自主防災組織、学校、事業所等における自助・共助の取組を促進する（別紙「実施項目参考表」を参考にして取り組む）。

今年度は、カムチャツカ半島付近の地震に伴う津波警報の発表や台風第15号による甚大な被害の発生により県民の防災に関する意識が高まっていることから、この機を捉え、改めて、「自助」「共助」の推進に取り組む。

自助では、全ての県民の皆様への「わたしの避難計画」の作成促進、避難訓練等での所要時間や経路の確認、生活物資や携帯トイレの備蓄促進のほか、「いつも」の暮らしが「もしも」の備えに役立つよう、日頃から意識せずに災害に備える「フェーズフリー」(※)の考え方を取り入れる。

共助では、避難所運営訓練の実施による運営体制の確認、避難後生活の質的向上に向けた改善などに重点的に取り組むものとする。

特に、「わたしの避難計画」は、今年度で、全世帯への普及を図ることとしており、自主防災組織を通じた作成や作成サイトの活用等、当月間を通じた集中的な取組を推進する。また、12月の「多文化共生月間」を踏まえ、文化や言葉の違いを乗り越えて、地域に共生する外国人県民を地域コミュニティの一員として捉え、誰もが安全に過ごせるよう、訓練の参加に呼びかけるなど日頃からできる対策をはじめ。

※「フェーズフリー」とは

フェーズフリーとは平常時と非常時の境界を取り除くことを意味する。

普段の暮らしで使っている身の周りのモノやサービスを、災害などの非常時にも役立つようにデザインしたり、活用したりすることで、「特別な備え」を意識しなくても、自然と防災につながることを目指す新しい防災の考え方。

＜重点項目 概要＞

自助	○「わたしの避難計画」の作成及び点検 ・ハザードマップで自分のいる場所の災害リスクを確認（総合防災アプリ「静岡県防災」の活用） ○緊急防災情報の確認 （「南海トラフ地震臨時情報」、「特別警報」、「高齢者等避難」、「避難指示」、「緊急安全確保」） ○避難訓練など自主防災活動への参加 ・避難場所、避難経路、避難所要時間の確認（総合防災アプリ「静岡県防災」の活用） ○身の回りの防災対策の確認 ・家具類の固定 ・家庭内の7日分の生活物資の備蓄（ローリングストックによる食料品保管、風呂等での生活用水確保を含む） ・携帯トイレの備蓄 ○フェーズフリーの考えを意識した取組 ・災害への備えを特別なものとせず、普段の生活に溶け込ませることを意識した行動 （例）普段から消費する食品を少し多めに買い足す。掃除のついでに家具の転倒防止対策や窓ガラス飛散防止フィルムの確認など ○地震保険の加入 ・地震、噴火、津波による火災、損壊、流失などで建物や家財が損害を受けた際に支払われる保険の加入を検討し、「もしも」に備える
----	--

共助	○避難所運営訓練の実施 ・自主防災組織の運営体制の確認 ・女性や外国人県民の視点を取り入れた避難所環境や運営方法の確認 ・避難行動要支援者の所在の把握と支援方法の確認 ・上記確認事項をふまえた避難所運営訓練の実施 ○避難訓練の継続的な実施 ・避難所要時間や避難経路の検証 ・若年世代や外国人県民の地域防災活動への参加
----	---

＜能登半島地震を踏まえた重点項目＞

自助	・住宅の耐震化の確認 ・火災防止対策の確認（感震ブレーカー、住宅用火災警報器などの備え） ・電気・ガス・水道・電話・交通機関等の被害の発生を想定した備えの確認
共助	・自主防災組織における情報伝達方法の確認 ・感染症対策や衛生環境改善（簡易トイレ・マンホールトイレ等）を踏まえた避難所運営訓練の実施 ・孤立が予想される地域における対応（住民が主体となったヘリポート開設訓練、通信手段の確認、給水訓練や炊出し訓練など）

5 実施主体

県、市町、自主防災組織、学校、事業所、県民

令和7年度 地震防災強化月間

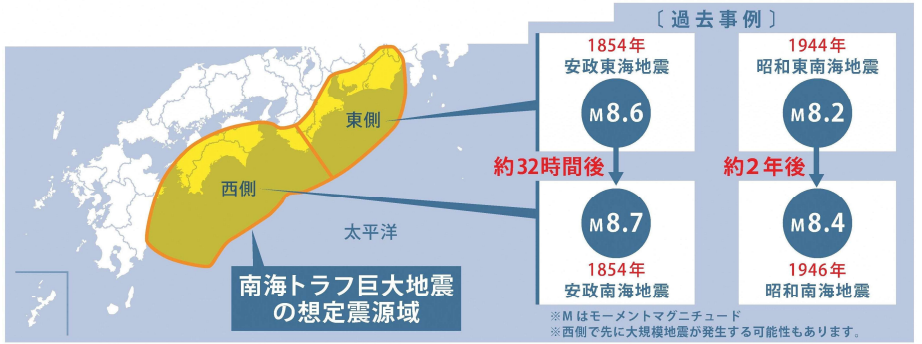
実施項目参考表（重点項目・・・太枠）

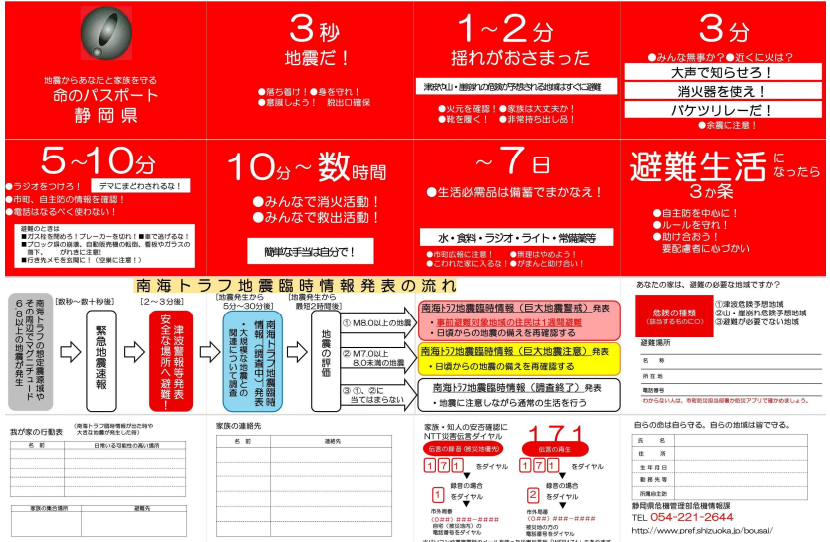
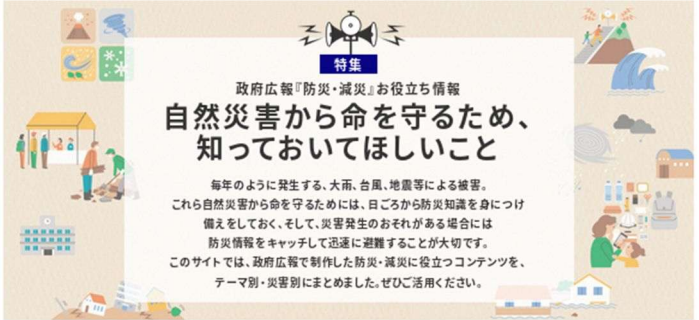
（１）自助

① 自宅での生活継続を図るための取組

	推進事項	実施事例(周知に使えるコンテンツを紹介)
【住居】	住宅の耐震化  (耐震ナビ)	[静岡県木造住宅耐震補強 IT ナビゲーション 耐震ナビ] 耐震診断や耐震補強工事の補助制度、県・市町の相談窓口等を紹介 耐震ナビ 静岡県木造住宅耐震補強ITナビゲーション  制度の詳細については市町建築担当窓口へ確認・相談しましょう。 県内耐震化率 89.3% (H30 住宅・土地統計調査より推計)
	家具類の固定  (家庭内DIG)	[家庭内DIG] 地震が来ても我が家で暮らす方法の実践  震度6以上では、ほとんどの物が倒れ、場合によっては大きく跳び、凶器に変わってしまいます。近年発生した災害において、ケガの原因の約30%～50%が家具類の転倒・落下・移動によるものといわれています。我が家の危険度をチェックし、家具の固定や配置換えなどを行ってみましょう。
	住居周りのブロック塀の点検  (ブロック塀の点検)	[ブロック塀の点検と改善] ブロック塀の点検方法や改善方法、補助制度を紹介  過去の地震では、倒壊したブロック塀や石塀の下敷きになり、多くの方が死傷しています。家のブロック塀を点検し、危険と判断された場合は、造り替えや改善をしましょう。

	推 進 事 項	実施事例(周知に使えるコンテンツを紹介)
【備蓄】	家庭内の7日分の生活物資の備蓄  (食料・水備蓄)	[食料・水 ローリングストックリーフレット] ローリングストックによる7日分の食料備蓄の紹介  大規模地震直後は、物流がストップすることが予想されるため、まず家庭で、食料・水を7日分備える必要があります。しかし、非常食を7日分備蓄するのは大変です。そこで、災害時の備蓄は、体調維持も踏まえ、「食べ慣れた食品」を活用し、ローリングストックで備えましょう。
	携帯トイレの備蓄  (携帯トイレ備蓄)	[携帯トイレの備蓄リーフレット] 携帯トイレの備蓄の必要性や活用方法の紹介  食えること、飲むことと「排せつすること」はセットです。水道が止まったら、下水道が破損したら、トイレは使えません！トイレを気持ち良く使うことができないと、体調を崩したり、災害関連死につながる可能性もあります。自分と家族を守るため、「携帯トイレ」も備蓄しましょう。
【確認】	ハザードマップ等を確認  (防災アプリ) ※防災アプリは多言語に対応しています。	[県総合防災アプリ『静岡県防災』](以下、「防災アプリ」と記載) 「マップ・避難場所等」メニューで、ハザードマップや避難場所等を確認・地震(揺れ)、津波、洪水、土砂災害、火山(富士山)に関する情報を一元的かつ手軽に確認できます。  ハザードマップや避難場所・避難所などを地図で確認できます。また、河川の水位情報や危険度を確認することもできます。  防災アプリの説明動画です。
	家族の安否確認方法・集合場所のルール作り	防災アプリで家族の安否を確認 各家庭で災害ごとの避難行動と集合場所を共有  安全確認用コンテンツも充実しています。「設定メニュー」→「安否登録」で ・ 災害用伝言板(Web171) ・ 安否登録・確認 (Google パーソンファインダー) を用いて災害時の安否を確認することができます。

	推 進 事 項	実施事例(周知に使えるコンテンツを紹介)								
	災害種別に応じた適切な避難行動の理解促進  (DIG)	[DIG (災害図上訓練)] 地図を囲みながらゲーム感覚で災害時の対応策を考えることができる実践想定型訓練の紹介 Disaster (災害)、Imagination (想像力)、Game (ゲーム) の略  ハザードマップやまちあるきで地域の状況を確認し、避難経路や防災対策について家族や地域で話し合ってみましょう👨👩👧👦。								
【確認】	南海トラフ地震臨時情報  (南海トラフ地震臨時情報)	[南海トラフ地震臨時情報] 南海トラフ沿いで大規模な地震が発生する可能性が高まった場合に発表される「南海トラフ地震臨時情報」について紹介  〔過去事例〕 <table><thead><tr><th>東側</th><th>西側</th></tr></thead><tbody><tr><td>1854年 安政東海地震 M8.6</td><td>1854年 安政南海地震 M8.7</td></tr><tr><td>約2年後</td><td>約32時間後</td></tr><tr><td>1944年 昭和東南海地震 M8.2</td><td>1946年 昭和南海地震 M8.4</td></tr></tbody></table> ※Mはモーメントマグニチュード ※西側で先に大規模地震が発生する可能性もあります。	東側	西側	1854年 安政東海地震 M8.6	1854年 安政南海地震 M8.7	約2年後	約32時間後	1944年 昭和東南海地震 M8.2	1946年 昭和南海地震 M8.4
東側	西側									
1854年 安政東海地震 M8.6	1854年 安政南海地震 M8.7									
約2年後	約32時間後									
1944年 昭和東南海地震 M8.2	1946年 昭和南海地震 M8.4									
	特別警報の確認  (特別警報)	[命を守るために知ってほしい「特別警報」] 「特別警報」とは、警報の発表基準をはるかに超える大雨や、大津波等が予想され、重大な災害の起こるおそれが著しく高まっている場合に発表し、最大級の警戒を呼びかけるものであり、気象庁では、平成25年8月30日から運用しています。 特別警報が発表された場合、お住まいの地域は数十年に一度の、これまでに経験したことのないような、重大な危険が差し迫った異常な状況にあります。この数十年間災害の経験が無い地域でも、重大な災害の起こるおそれが著しく高まっていますので、油断しないでください。 特別警報が発表されないからといって安心することは禁物です。気象庁では、特別警報だけでなく、危険度の高まりに応じて警報や注意報も発表しています。大雨等においては、特別警報の発表を待つことなく、時間を追って段階的に発表される気象情報、注意報、警報やキキクル（危険度分布）等を活用して、早め早めの避難行動を心がけてください。								

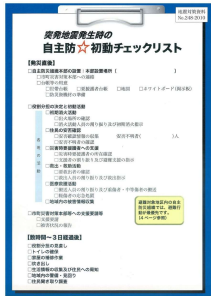
	推 進 事 項	実施事例(周知に使えるコンテンツを紹介)
	避難情報  (避難情報)	[避難情報に関するガイドライン] 警戒レベルと避難情報について紹介  自分の命を守るため、「避難指示」が出たら、必ず避難しましょう。 ・市町は危険な場所からの避難のタイミングとして、警戒レベル4「避難指示」を発令します。 ・災害が発生・切迫し、警戒レベル4での避難場所等への避難が安全にできない場合には、自宅や近隣の建物で緊急的に安全確保するよう促すため、警戒レベル5「緊急安全確保」を発令します。 ・避難に時間がかかる高齢者等は、警戒レベル3の「高齢者等避難」で安全な場所に避難しましょう。
【確認】	地震から命を守るために  (パスポート)	[地震からあなたと家族を守る「命のパスポート」] 地震発生時の行動を確認  カードサイズに印刷し常に携帯しましょう。 対応言語 日本語、英語、ポルトガル語、フィリピン語、インドネシア語、ベトナム語
	自然災害から命を守るために  (政府広報)	[自然災害から命を守るため、知っておいてほしいこと] 防災・減災に役立つコンテンツをテーマ別・災害別に紹介 

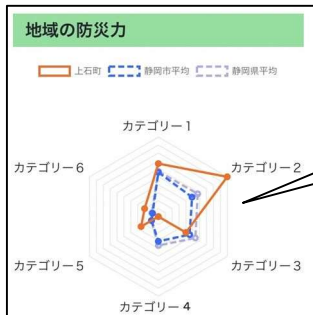
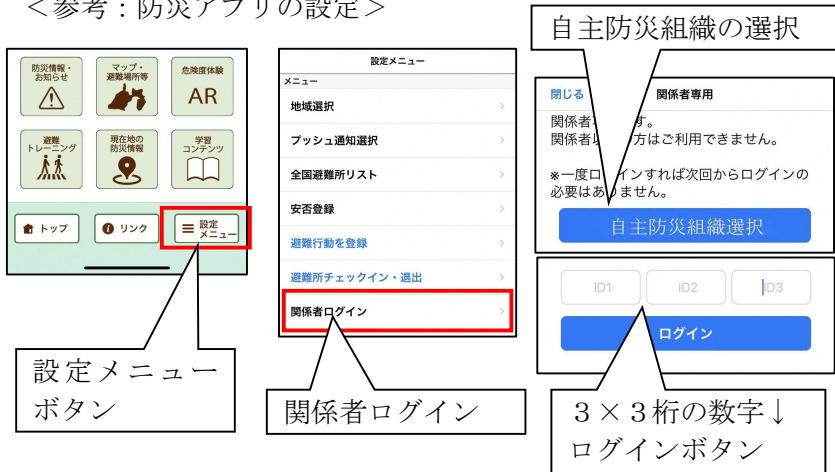
② 命を守る行動に繋げるための取組

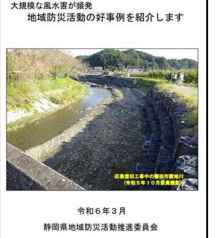
	推 進 事 項	実施事例(周知に使えるコンテンツを紹介)
【点検】	一人ひとりの避難計画「わたしの避難計画」  (避難計画)	[一人ひとりの避難計画「わたしの避難計画」] 「わたしの避難計画」の概要や作成方法を紹介   作成方法 (動画) 紙の場合  作成方法 (動画) PC、タブレットの場合 身の回りの災害リスクに備えて、「どのタイミング」で「どこに」避難するか、決めておき、早期避難につなげましょう。 家族で話し合って、「わたしの避難計画」を作成し、目のつく場所に貼っておくことで、いざというときの避難に役立ちます。
	避難シミュレーション  (防災アプリ避難トレーニング)	[避難トレーニング機能] 防災アプリで避難トレーニングを実践  個人や家族で実際にやってみよう。 ・避難先までの経路や時間 ・津波到達アニメーションで経路の再確認 ●操作方法 アプリを起動 → 避難トレーニング → 避難避難先を指定 結果を検証 (津波シミュレーション) ← 歩いて確認 ※避難先までの避難が間に合わなかった場合は、避難経路の見直しなどを検討しましょう。 例えば：ここを上る階段があれば・・・ ここを渡る橋があれば・・・  下田市で実施した避難訓練を元に作成した避難トレーニングの動画です。
	「まち歩き」の実践  (まち歩きシム)	[防災まち歩きシミュレーション] 静岡県と包括連携協定を結んでいる東京海上日動制作のHPを紹介  親子で自宅や通学路などの探検をして、まちの中にどんな危険があるか確認してみましょう。

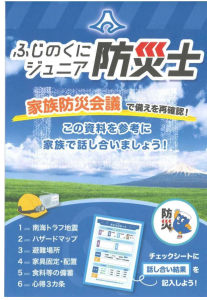
(2) 共助

① 地域の防災力を底上げするための取組

	推進事項	実施事例(周知に使えるコンテンツを紹介)
	地域防災活動内容の把握  (マニュアル)  (防災ナビ)	[地域防災活動マニュアル、ふじのくに防災ナビ] 「地域防災活動マニュアル」と「ふじのくに防災ナビ」で地域防災活動について紹介   地域防災活動の手引書である「地域防災活動マニュアル」には、自主防災組織の体制や平常時の防災活動、災害発生時の対応などを掲載しています。マニュアル等を活用して、地域防災力を向上しましょう。 ※地域防災活動マニュアルは、「自主防災組織活動マニュアル(2013 作成)」の名称を「地域防災活動マニュアル」と変更し、内容を更新したものです。  二つの冊子を説明した動画で内容と使い方を御確認ください。
【体制】	地域内の連絡体制  (初動チェック)	[突発地震発生時の自主防初動チェックリスト] 自主防災組織、消防団、学校、事業所等など、この機会にお互いで、連絡体制を確認してみましょう。 ○非常時の連絡先の再確認 ・連絡網の作成 ・電子メール ・LINEなどのITツールの活用 ○防災アプリの活用 ・災害状況の投稿 ・避難所状況の投稿(早めの避難) 
	自主防災組織内の人材台帳の作成  (人材台帳)	[人材台帳作成のすすめ] 防災・減災という共通の目的のために、力を発揮してもらえる地域の体制づくりを紹介  平常時から、専門知識や資格、技能を持っている人に協力してもらえる仕組み作りが地域防災力強化に繋がります。地域の人材を発掘し、災害時の協力体制を構築しましょう。

	推進事項	実施事例(周知に使えるコンテンツを紹介)
【体制】	自主防災組織の運営体制の確認  (防災アプリ 自主防災組織向け機能)	〔防災アプリで自主防災組織体制を強化〕 ア 自主防災組織簡易評価カルテ ・自主防災組織の防災力を個別にチャート化し、「自主防災組織簡易評価カルテ」として結果をフィードバック ・今後の取組へのアドバイスや優良事例などの参考情報を確認  イ 防災アプリアンケート機能 アンケート機能を活用し、行政と各自主防災組織間で情報共有 ウ 防災アプリ投稿機能 気象・災害の情報や避難所・避難場所の情報を映像と合わせて投稿し、利用者で共有  県災害対策本部では投稿により被害等の情報を収集しています。また、避難所・避難場所の状況を投稿していただくことで早期避難を促すことができます。御協力お願いします。  自主防災組織向け機能説明動画で内容と使い方を御確認ください。 ※安全を確保して、危険な箇所へは近づかず投稿してください。 <参考：防災アプリの設定>  防災アプリの自主防災組織向け機能の活用ログインID（3×3桁の数字）は、各市町防災部局又は静岡県危機管理部危機情報課までお問合せください。 危機情報課 TEL：054-221-2644 危機情報課メールアドレス：boujou@pref.shizuoka.lg.jp

	推進事項	実施事例(周知に使えるコンテンツを紹介)
【体制】	運営に女性の意見を反映  (男女共同参画)	[～男女共同参画の視点から～みんなが共に支え助け合う防災ブック] 男女双方の視点を取り入れた防災体制づくりと避難所の運営を紹介  地域での男女共同参画の浸透及び地域防災力の強化を図るため、自主防災組織の役員などの地域防災に関わる方向けに、分かりやすく解説しています。
	様々な人がともに助け合う防災体制  (外国人県民向け)	[外国人県民のためのガイドブック] 避難生活の様子や地震の基礎知識などを紹介 ア 外国人住民のための避難生活ガイドブック イ 地震防災ガイドブック「やさしい日本語」版   「英語版」「ポルトガル語版」「フィリピン語版」「インドネシア語版」「ベトナム語版」「やさしい日本語版」の6種類を発行しています。
	協働による自主防災組織の活性化  (自主防災組織)  (企業の地域貢献)	[協働による自主防災組織の活性化のための取組] ア 協働(コラボレーション)による自主防災組織の活性化をめざして 地域の防災人材や消防団など防災に関する専門的な知識と経験を有する方と協働(コラボレーション)して組織を活性化させましょう イ 企業の持つ『組織力』『資材力』『技術力』を生かした地域貢献 お住まいの地域にある企業に目を向けてみませんか？企業には、多彩な従業員と組織力、日常の業務で使用している資機材や商品、日常の業務で培った知識や技術がありますので、企業と防災協定などを結び、災害時に連携しましょう  
	活動好事例集  (自主防災組織)  (地域防災活動)	[自主防災組織における活動事例] ア 自主防災組織好事例集 自主防災組織で実際に行われている好事例を集めました。「独自の避難所マニュアル作成などの先進的な防災活動」や「地域の防災力を強化する取組」など。 イ 大規模な風水害が頻発地域防災活動の好事例 最近は静岡県内各地でも台風、集中豪雨などによる「風水害」被害が頻発しています。風水害に対しての各地域での活動及び各市町対応の好事例を紹介します。  

	推進事項	実施事例（周知に使えるコンテンツを紹介）
【体制】	若年世代の地域防災の取組への参加・防災教育  （ジュニア防災士）	[ジュニア防災士の取組]  中・高校生の地域防災訓練への参加の促進を含む 大学生や若年層の方々は、地域の活動や防災訓練などへの参加を通じて、地域との関係を深めることにより、災害時には支援者としての活動が期待されます。 ・ジュニア防災士など防災講座の講師 ・学校等と連携した防災訓練
【支援】	避難行動要支援者の所在の把握と支援方法の確認  （避難行動要支援者）	[避難行動要支援者の避難行動支援に関する取組指針] 避難行動要支援者名簿とは、避難行動要支援者の生命・身体を災害から保護するために必要な措置を実施するための基礎となる名簿です。 名簿の作成とともに、地域の特性や実情を踏まえつつ、名簿情報に基づき、市町や民生委員、社会福祉協議会、自主防災組織・自治会、福祉事業者等が中心となって避難行動要支援者と打ち合わせ、個別計画を策定しましょう。 普段から住民同士が顔の見える関係を構築し、避難行動要支援者が地域で孤立することを防ぎ、地域にとけ込んでいくことができる環境づくりに努めることが、発災時の円滑かつ迅速な避難支援に繋がります。 

② 地域全てで運営・参加する取組

	推進事項	実施事例（周知に使えるコンテンツを紹介）
【運営】	避難所開設訓練の実施  （防災アプリ避難所支援機能）	[防災アプリの機能を活用した避難所開設訓練] ○防災アプリ 避難所支援機能 ・受付時の接触を低減 ・避難所利用簿の自動作成 ・健康状態の確認（受付時、お知らせ配信） ・全ての避難者へ防災アプリからお知らせ ※避難所以外の避難者の登録が可能になりました。避難情報に登録ボタンが表示されます。 （下図ア） ○ 自動受付簿作成機能 ○ 避難者情報共有機能   ア イ ウ ア、イ、ウの順で登録、受付をしてください。避難所以外への避難の方は、イ までです。詳細は動画で確認できます。 在宅避難、車中避難など避難行動中の方全てにお知らせを配信します。 ※災害時は情報を様々な方法で手に入れる準備が必要です。  避難所支援機能（一般向け）の動画で内容と使い方を御確認ください。  避難所支援機能（管理者向け）の動画で内容と使い方を御確認ください。

	推進事項	実施事例(周知に使えるコンテンツを紹介)
【運営】	避難所運営マニュアルの確認  (避難所運営)	[避難所運営マニュアル] 避難所運営に必要な体制や行動等を紹介  大規模災害発生後に避難所利用者が、円滑に避難所運営を行うために必要な事項をまとめています。 避難所立ち上げ時にやるべき事や、各活動班の仕事等をチェックリスト形式でまとめられており、実際の避難所運営時に活用できます。
	男女双方の視点を取り入れた避難所運営	[男女共同参画の視点からの防災手引書ダイジェスト版] (再掲) 男女双方の視点を取り入れた防災体制づくりと避難所の運営を紹介
	ペット同行避難  (ペットの地震対策)	[避難所のペット飼育管理ガイドライン] 避難所運営本部と飼い主に向けに役割やルールなどを記載  災害時、飼い主は、原則としてペットと同行避難をする必要があります。 また、同行避難後、自宅損壊等により在宅避難ができない場合、避難所のペット飼育場所において、飼い主自身が全責任を持って飼育管理することが原則となります。 飼い主の方は、ペットの安全と健康を守るとともに、他者への迷惑にならないように日頃からの備えに努めましょう。
	防災訓練の実施  (マニュアル)	[地域防災活動マニュアル] 各種防災訓練の内容について紹介  地域防災活動マニュアルの 32 ページから 69 ページに、防災訓練についての説明が掲載されています。 地域の特性にあった防災訓練を実践しましょう。
【訓練】	自主防災組織本部体制の確認訓練  (イメージTEN)	[イメージTEN (自主防災組織災害対応訓練)] 地震発生時に自主防災組織の役員や住民の対応を考えるイメージトレーニング訓練 Image (想像) Training (訓練) & Exercise (演習) of Neighborhood (隣近所) の略  災害時に、自主防災組織がどのように対応したらいいかを具体的に考えるイメージトレーニングです。 イメージする課題が最大 10 題付与されることも「TEN」の由来です。 自主防災組織の役員を中心に、災害発生時の活動を確認しておきましょう。

	推進事項	実施事例(周知に使えるコンテンツを紹介)
【訓練】	避難所運営体制の 確認訓練  (避難所運営ゲーム (HUG))	[避難所運営ゲーム (HUG)] カードを用いて避難所運営を疑似体験する図上訓練 「H (hinanjo 避難所)」「U (unei 運営)」「G (game ゲーム)」の頭文字を表す。 避難所運営ゲームHUG 避難所運営ゲームHUGとは、避難所運営をみんなで考えるための図上トレーニングです。避難所運営の重要性を認識し、避難所運営の役割や役割分担、避難所運営のルールやルール違反の対応、避難所運営の課題や課題の解決策などを考えることができます。また、避難所運営の役割や役割分担、避難所運営のルールやルール違反の対応、避難所運営の課題や課題の解決策などを考えることができます。 全体の手順 ① 避難所の準備 ② 参加者のグループ分け ③ HUGの概要説明 ④ 図上訓練(イメージトレーニング) ⑤ 振り返り・質疑応答 ⑥ 総評・片付け 様々な事情を抱えた避難者が避難してくる状況の中、各種イベントへの対応も含め、避難所運営をどのようにしたらいいかを具体的に考える疑似体験ゲームです。 「HUG」は英語で「抱きしめる」という意味があり、避難者をやさしく迎え入れてほしいとの願いが込められています。 避難所運営は避難所利用者が主体となって行います。地域の皆さんで体験しておきましょう。
	避難訓練  (マニュアル)	[地域防災活動マニュアル] (再掲) 避難訓練の内容について紹介   地域防災活動マニュアルの61ページから65ページに、避難訓練についての説明が掲載されています。 地域で予想される災害を対象に避難訓練を計画しましょう。 [避難トレーニング機能] (再掲) 防災アプリで避難トレーニングを実践  ※避難場所は、いつでも同じと思っていませんか？ 地域の方々と一緒に「突発地震」「津波避難」「洪水・土砂災害」「火山災害」など災害種別ごとの避難訓練を行ってみましょう。
	地域の安否確認体制の確認  (富士宮市の取組例)	[安否確認訓練] 家族が無事であることをお知らせするシンプルな方法として「黄色いハンカチの掲示」があります。 ※他にも様々な取組がありますので実践については、お住まいの市町へお問い合わせください。 

[危機対応におけるPDCA]

P：計画・D：訓練



[地区の防災計画作成]



[わたしの避難計画の作成]



[訓練の実施]



[周知啓発]

C：評価



[市町との連絡体制の確認]



[防災人材からのアドバイス]

- ・市町や消防機関等との協力・情報提供
- ・地域防災指導員や防災士など防災に関する知識や技能を持った人材の活用

A：改善



[持ち物、備蓄品の確認]



[事前対策]



[点検]

自主防災活動の普及啓発（認知率の向上）
地区の防災計画の見直し
防災倉庫の備品確認
避難所の備品確認

ハザードマップの確認
指定避難場所までのルート、時間の確認

持ち物などの確認
備蓄品の確認（食料・水・携帯トイレ）
服装の確認（防寒対策、雨対策、靴）

住宅の耐震化
家具類の固定
被害の最小化対策・点検